

地域が必要とするコミュニティバスを

運行・運営するためのニーズ把握調査

NPO法人くらしサポート越後川口
代表理事 水落 優

1. はじめに

新潟県長岡市川口地域は平成16年に中越大震災により大きな被害を受けた地域です。この震災から、急激な人口の減少が発生をしました。

特に、中山間地の小さな村では過疎と高齢化が加速してしまいました。自力で移動手段を持たない人達には、このコミュニティバス（黄色いバス）は生活を維持するための、非常に重要な移動手段となっています。

この、黄色いバスの運行を、地域の要望に添えてより柔軟に運行していくことを目的に、平成25年4月より地域NPO法人くらしサポート越後川口（当会）が運営をすることとなりました。地域が求める交通手段のあり方を正確に把握し、住民の声を運行にどう反映させるか、この点がポイントになると私たちは考えました。



2. 黄色いバスを必要とする背景

川口地域の分布図です。川口には国道17号線・上越線と飯山線の川口駅や高速道路の川口インターチェンジがあり、アクセスは良い地域です。

地域の配置は、中心部より周囲4km～6kmと離れた山間地に点在をする村々があります。特に高齢化の進んでいる村もあり、買い物や通院などへの移動手段として黄色いバスは重要な交通手段となっています。

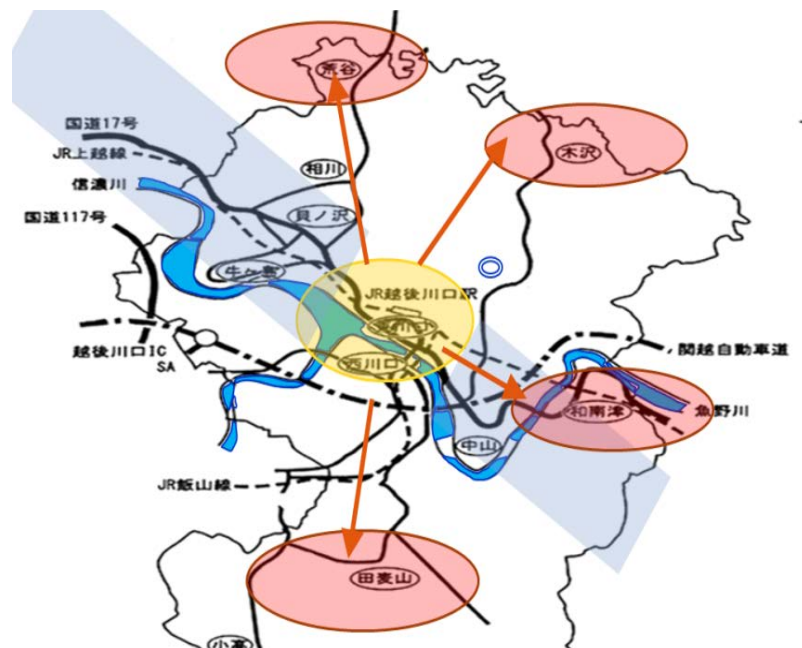


図-1

川口の地域力を維持や進展をさせる為のツールとして、黄色いバスの活用がポイントとなると考えられます。図-2では、川口の地域力の変化をイメージしたのですが、過疎と高齢化の進行により、地域との繋がりが希薄となっていきました。

そこに発生した中越大震災を契機に、地域力の変化が発生します。中には大災害により、地域力は加速的に低下し、地域の機能を維持出来ない状態に陥った地域もありましたが、川口では震災から復興の気持ちとボランティアや協力団体の協力により、地域力の回復が劇的に進みました。

しかし、外部からの協力団体による支援の終了や、復興基金事業の終了に伴い、復興の原動力と共に盛り上がってきた地域力が下降線に入ること何ともしも避けたいと私たちは考え、地域の暮らしを住民自らの手で支え合う新たなグループの設立に至りました。そして、その活動の柱のひとつが、地域交通「黄色いバス」の充実と考えました。

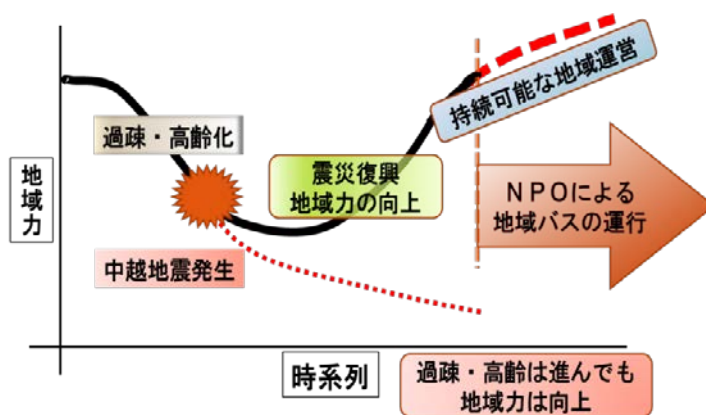


図-2

3. 事業の内容

黄色いバスの運行を当会が行うこととなり、地域の方がより使い易いバスとする為に、聞き取りやアンケートの調査を行いました。

1) バスの利用者に聞き取り調査

5月から調査員がバスに乗り込み、利用者に聞き取りを行う。

【内容】 性別・年齢・行き先・利用目的・利用頻度などの調査

2) 全地域住民へアンケート調査

6月～7月に1455世帯に配布。

【内容】 (1) あなた自身について・・・性別・年代・地域・車の有無など

(2) バスを利用した事があるか

(3) バスに利用目的はなんですか

(4) バスを利用する頻度は

(5) バスを利用する時間帯は

(6) あなたの家族でバスを利用する方はいますか。

その方の利用目的と利用頻度も教えてください。

(7) 現在のバスに満足していますか

(8) バスの運行を改善するとしたら

9項目について希望度を選択してください

(9) バスの運行についてNPOが運営する事の安心度を教えてください

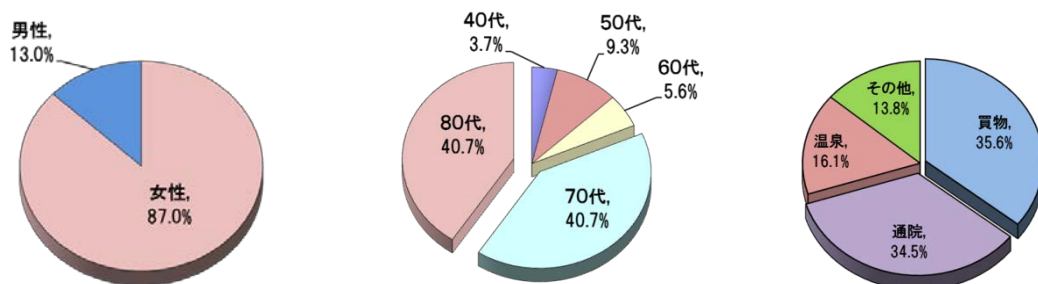
(10) その他自由に意見をお書きください

- 3) アンケート及び聞き取り調査より運行計画を作成する
 - (1) 聞き取り調査の集計と分析
 - (2) アンケートの集計と分析
 - (3) 上記(1)・(2)から運行計画の作成
- 4) 運行計画の検証実験
- 5) 25年4月からの運行開始

4. 調査結果

1) 聞き取り調査の結果

- 調査人数・・・54名
- 調査期間・・・5/1～24日までの期間で9日間の添乗調査を実施



1)-1 分析結果

- (1) 利用者の約9割が女性であった。
- (2) 年代は70代以上が8割を占めています。
- (3) 利用目的は買い物・通院で7割を占めています。

1)-2 利用者の声

- (1) 震災で村から離れたが、時々茶飲み村の友達の所に行く。
- (2) " " 畑をしているので村に行く。
- (3) 「ぬくもり荘」(老人施設)で自炊をしている人が買い物に利用する。

2) アンケート調査の結果

- 回収数354枚(配布1455枚)
- 回収率25%

2)-1 地域別の回収状況を見ると山間地の回収率が30%～50%を占める。しかし中心部や、公共交通機関の近くの地域では、回収率は20%以下となった。山間地の人達は黄色いバスの関心度が高い事が分かる。

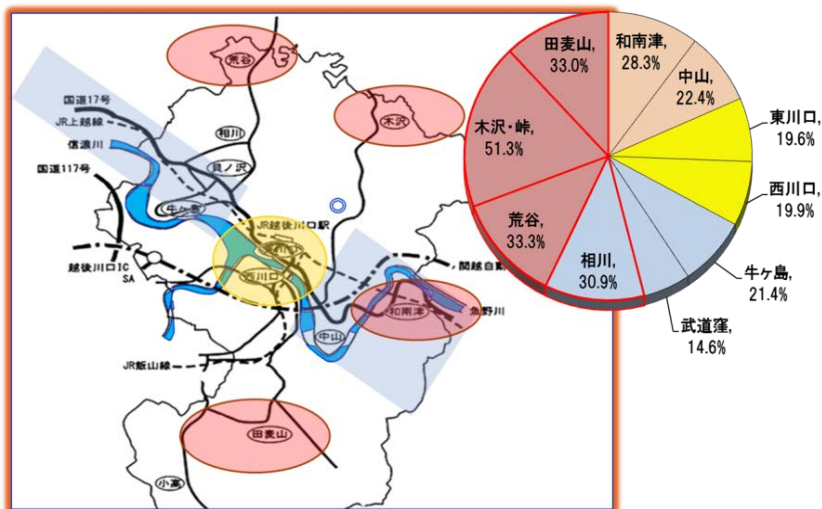


図-3

2)-2 黄色いバスの利用度調査から

- (1) 約3割の方が利用している
- (2) 利用頻度は、「頻繁3割」「時々が3割」「年に数回が3割」の比率であった。
- (3) 利用時間は午前中が8割を占めている。

▲利用をしない7割の方は

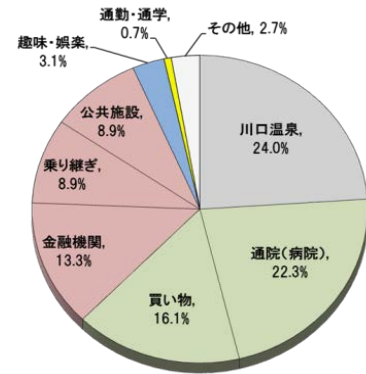
- (4) 車を持っており自力で移動が可能である。
- (5) 家族に送迎をしてもらえる。という回答が多い結果であった。

2)-3 利用目的は

- (1) 温泉に行く 24%
- (2) 買い物に行く 22%
- (3) 通院に使う 13%

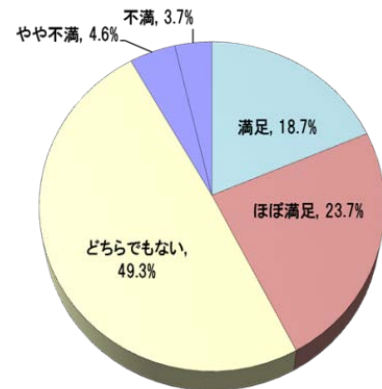
地域の人達の生活交通として重要な存在となっている事が分かる。

(この3項目は聞き取り調査と同じ結果)



2)-4 満足度については

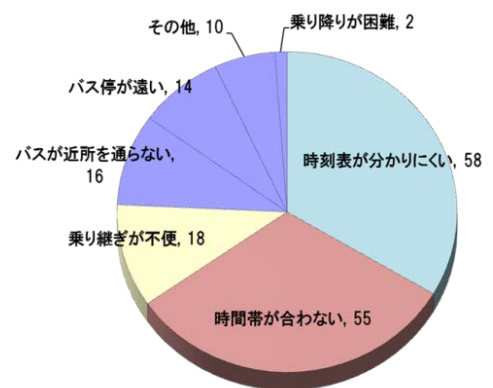
- (1) 満足とほぼ満足で約4割を占めている。しかし利用経験の無い方の回答が、「どちらとも言えない」と多数を占めている。この部分を考慮し単純計算をすると、利用者の約7割の方が満足と回答をしたと予測される。



▲黄色いバスで改善を要望される物は

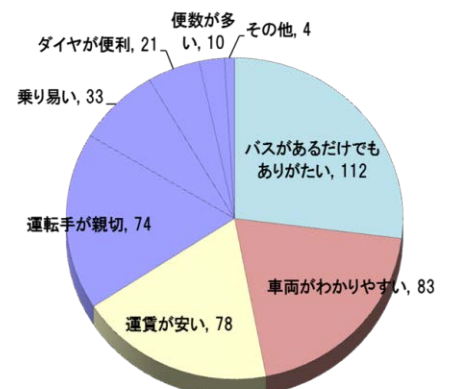
- (1) 時刻表が分かりにくい
- (2) 乗り継ぎの時間帯が合わない
- (3) 乗り継ぎが不便

改善のポイントとしては、比較的対応の難易度は低い事から、地域の要望に沿った方向での対応が可能と判断をした。



2)-5 黄色いバスの満足の部分としては、

バスがあるだけでもありがたいなど、バスの運行がある事自体に評価をされた意見が多い。ここでも地域には貴重な交通手段である事が読み取れる。



5. 運行計画への展開

以上の分析結果などを考慮し、具体的な運行計画案を作成しました。

アンケート結果からのポイントとしては

- (1) 山間地の人達は生活交通として重要な移動の手段であるため、更に利便性を高める方法を導入する。
 - (2) 利用頻度の高い午前中と正午の時間帯に運行を行う。(これまでは休憩時間)
 - (3) 誰もが分かり易い時刻表・ルート案内の準備を行う。
- これらを配慮しながら、詳細な運行計画の立案から導入を行う。

1) 運行ルートの見直し

1)-1 従来の2ルートより3ルートに変更をする。これは、川口中心部と山間部を結ぶ時間の短縮を行い、移動における時間の短縮を狙っている。従来の1時間10分サイクルから40分サイクルとする事で利用者の利便性を向上させる。

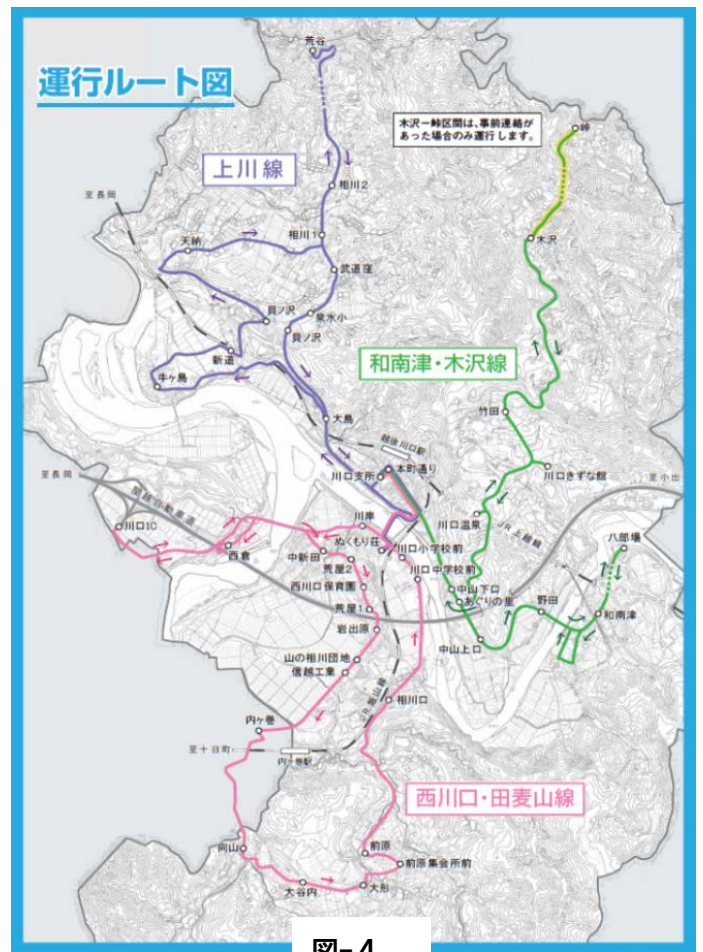
1)-2 従来のルート内で固定した走行から、全ルートを巡回する方法に変更を実施する。

従来はAルートは1号車、Bルートは2号車と固定をしていた。この為に各ルートから外れる地域に行くには乗り換えが必ず発生をしていた。これを3ルート方式では、1号車はAルートからBルートを走行しCルートへと繋がる。この為に目的地がどこであっても、乗車をしていれば必ず到着をする

1)-3 ルートの追加と削減の実施。

公共交通機関として、川口地域にはJRと路線バス及び高速バスのアクセスがある。この中で高速バスとの

アクセスは無かったが、新たに川口インターへのルートを新設した。これにより、全ての公共交通とアクセスが可能となった。また、過去のDATAより、利用客のほとんど無いルートを削減したが、事前に連絡を入れる事で対応は行う方法を残していた。そこで、2台の休憩時間をシフトする事により、常にバスが走っている状態を作る。



2) 時刻表について

アンケートの中で時刻表が分かり難いという意見が多く寄せられました。

その理由の一つとして、時刻表の文字のサイズが小さい事などがありました。

そこで、時刻表の文字を大きくすること、路線の流れを見易くする事で対応を行い、サイズはA2と大きな物としました。

サイズが大きくなった点は、用紙の折り方と、折り目に時間等の文字が重ならない事を配慮したレイアウトを行いました。

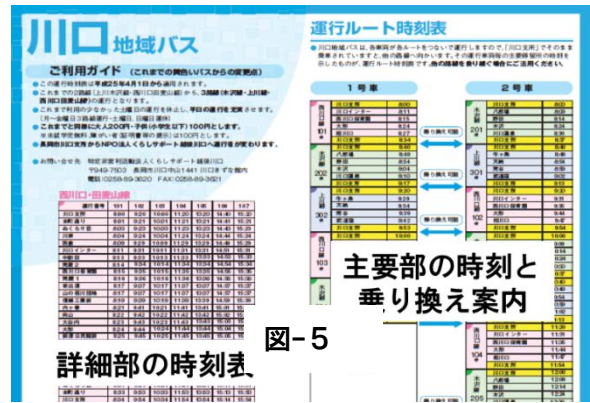


図-5

3) その他 利用客の利便性を考慮した取り組み

3)-1 回数券の試験発行を行う。これはバスのみの利用では利便性を得られない事から、地域のスーパー、道の駅、川口温泉の利用にも対応できる仕組みとします。

6. 今後の展開

1) 今回の調査結果を踏まえた運行ダイヤで25年4月より当会が運行を開始します。まず確実な運行を開始出来る様に万全の準備を行います。

2) 地域に根差したバスとする為に、利用者の声を常に聴きながらの運営を進めます。その為に何をすべきか、利用者の目線で見られる体制づくりを目指します。

3) 更に活用の範囲を広げ、多くの人にバスの活用を行える環境の準備を行います。

以上